

新段階を迎えた熱中症闘争

ゴマ化しは許さぬ

去る七日、百田・四山指導部長をはじめ、かねて「熱中症」が多発してきた四山鉱の坑内職場の代表者四人が、熊本県総評（もく田事務局長）の支援のもとに今年の二月二十六日以来、玉名労働基準監督署を通じて「熱中症を職業病として認めよ」と要求していたことに對する、熊本労基局としての正式の回答を求めたところ、局側は「災害療養の請求用紙さえ与えようとはしない。これでは、せっかくながら職業病としての認定の受けようがない。さうぞく、三井鉱山に對する行政指導が必要になつてくるが」とたがしたのに對し、局側は「この結論に至つた経過をよく説明し、それらがスムーズに発行されるように求める」ことを確約した。

一方、労働者としても、熱中症に對してこれまで、まったくあやまった考え方をしていたことをあげなければならぬ。

——請負給の著でバテたりなどしては、炭鉱夫として恥だ。

——タンカでかつぎあげられたりしては、同僚に對して氣の毒。

——問題をきげんまでしてこじらかさんでも、特休どもらつていっちょろう。

このような、あやまった考え方

をしていた労働者も、今年の一月からこっちに至って、熱中症患者がバタバタと出はじめると、もう黙ってはいられなくなつた。事実一月から六月までの間、たしか二十人ほど、高温多湿な職場でぶっ倒れては、かつぎあげられたものであつた。

指導部といひ、三池労組といひ、いまや熱中症を問題にすることになつたのは、当然なことだつた。

変つてきた

会社の態度

すると、今が今まで一顧だに与えようとしなかつた会社側が、がらり態度を変えてきて、ビタミン剤を配つてみたり、かごにドライアイスを入れて、抗道や切り羽の天井にぶら下げたり、あるいは労働者にすすめて抗内帽のなかに氷やドライアイスを入れさせたりし出した。お手のもののテイのよいごまかしである。組合、職場が本来要求しているのは、そんなごまかしではなく、一人の熱中患者も出さないために、快適な職場環境をつくれ、ということだつた。またそのためにこそ、熱中症患者を職業病患者として認めさせ、会社の責任として一切を保障せよ、と要求して立つたのである。

従つて、問題は熊本労基局の意志表明によつて解決したのではなく、むしろこれからである。第一熱中症を職業病と認めるについて、「認定基準」さえ、これからつくられるものであり、正しい基準をつくらせるにも、これまでにありました覚悟と、職場での具体的闘ひが必要になつてくる。

とすれば、熱中症闘争はまさに今からだといえる。

長洲の人々は
賢明だった

三里校区連協が、フツ紫公書樓
滅を呼びかけながら活動中、一市
民は語った——「アルミの誘致に
断固反対した、長洲の人々はほん
とに賢明でした」と。

症”の三つがある。

一つ。高温・高湿が大きな原因。
二つを同時に現わす湿球温度が三二・五度では確実に発病し、同三〇度でも熱中症の危険があると相沢教授は指摘している。

熱中症の原因について一部では“ビタミン不足病”をとっているが「ビタミン不足自体が高湿労働によって起こる」（相沢教授）という。一度は影をひそめていたこと「熱中症」が再び問題化したこと

百才以上、金匱に四百五人。雨
ニモ、風ニモ、戦争ニモ、公害ニ
モ負ケズ。長寿万才。

輸入はあぶない。

×

車輛制限令。十月の建軍パレ―

反合闘争の中で仲間を結集しながら

福島佐藤敏勝

爆発した春闘
復帰者続々と

長野 赤沼健治

火花

ところで先
長野 赤沼健次

ン。取り組みについて要請があり、早速取り組みをしたわけで、三分会スト。地本全体でも、五人に一人はストに入りました。

の面での支援に終わることなく、資本が搾取を強化する唯一の道一合理化により、あらゆる職業病の発生、労働災害の増大などが起こる。いままでは闘争のたびに脱落者があったのに、こんどは逆にストがあつたのに、こんどは逆にスト中ぞくぞく闘争への復帰者がでました。（地本全体で二百名）

闘争を指導した私たちに、おそ

っている今日、自分自身の生命と暮らしを守るには、それぞれの職場で合理化と対決し、その闘いの中で一人でも多くの仲間を組織していくことだ。そのことが、本質的

らく処分を加えてくると思います。しかし、私たち青年部は沖縄闘争とともに、反合・政治春闘と位置づけた国労の「政策要求闘争路線」を基本要求、先行解決要求

にCOO闘争にとつても支援になるし、良いことではないか、と問題を提起して論議した結果、カンパ活動に立ちあがったのでした。

集まつてお金は十分といへな

を目的意識的に追及し、闘線」を目的意識的に追及し、闘

ていきます。戦間的な青年労働の課題は、単なる青年運動から

皮して、国労全体に指導性を發

いでしょうが、私同様若い人のことで遊びたい盛りの弱さ、低賃金生活を強いられていることと、了承いたしたいと思います。

三池で学んだ仲間みんな活家としてがんばっていますが、人は鉄男（第二組合）へ、一人運動から離れています。

近況お知らせまで。

赤沼さんの住所は「長野県
安曇郡松川村眞住西〇一三
です。」

佐藤さんのお住居は「福島県田

資本は惜しいです。でも、おせり
は薬物ですね。今後とも一層頭張
って行くことを最後に……。」

×

根本原因は合理化

相沢長崎 熱中症 で警告
大学教授

西日本新聞九月九日の夕刊は、「熱中症」に関して次のように、長崎大学医学部一教授の貴重な見解を伝えた。

×

三井三池炭鉱の「熱中症」の労災認定問題がグロースアツプされているが、熱中症を研究してきた相沢竜・長崎大学医学部教授（公衆衛生学）は「三池炭鉱のように坑内条件が、気温三三・四度、湿度九〇％とすればこの中で、一時間前後の中等重労働をすれば、確実に「熱中症患者」がでる、至急通風をよくするなどの改善が必要だ」と強く警告している。

「脱症」③発汗と脱塩現象によって
筋肉や全身に起こす「熱けいれん」といつている。

集患者うちま
肺う今日
のじんゆく
組の山に、
代表者を
受けず、

対しては、さすがに日曜日に狩りだされている新労組員の間からさ
に、本紙前号で警告したが、事
日曜採炭で、三川の職制がカッ

26の両日
八女郡（11
金山（補
何老
る

え、怒りの声があがっている。

「いつもは規律規律と、口やかましきいう会社が、その口をぬぐったように、労働者をたづなひかすためには、柵内でビールまである。恐るべき、日曜探炭である。土

ーチエンにはなれて入院した。た四山でも探炭工がトラフにはきまれ入院と、早くも事故が発生しはじめた。

去る8月25～26日、星野浩一先生は、本会を訪問し、調査した。星野先生は、患者数41人、うち重症を訴える

もう。言語通断だ」

その怒りは、すぐさま月曜日にハネ返つてきて、採炭工など、月曜日の出勤がガタ減り。

二つような強制労働が恐るべき切な命を、一パイのビールとひきかえにすることはできぬ。

×



福岡県総評は、かねて問
め、かの実態を
者、患した人々
罹りしもの

いでしょうが、私同様若い人のことで遊びたい盛りの弱さ、低賃金生活を強いられていることと、了承いたしたいと思います。

三池で学んだ仲間みんな活家としてがんばっていますが、人は鉄男（第二組合）へ、一人運動から離れています。

近況お知らせまで。

赤沼さんの住所は「長野県
安曇郡松川村眞住西〇一三
です。」

佐藤さんのお住居は「福島県田

資本は惜しいです。でも、おせり
は薬物ですね。今後とも一層頭張
って行くことを最後に……。」

×
